

めぐみの学校の子

恵田小

校長室だより
令和元年九月九日

No. 135

「つなぐ」

おとしに植え、昨年苗をとり、今年も続けてきたイチゴの苗からランナー（つるのよように伸び、そこに新芽がいくつかつく）が伸びた。新しい苗ができてきた。来年のイチゴの準備が始められそうだ。



ほとんどのことは、時がたてば、これまでどおり次へとつないでいくことができる。恵田小の特色ある活動、ぶどうづくり、米づくりなどの栽培、落ち葉スキーなど、よいものとして皆の努力でずっと続けてきた。

しかし今年は、未来へとつないでいくのに、サルやイノシシの侵入によって、例年になく苦勞が必要だ。こうした状況になると、同じことであっても、ずっと続けていくのは大変なのを改めて感じる。それとともに、今年までつないできたことへの感謝の気持ちがいっそう強くなる。

それぞれの活動には、今年と同様、大変なこともきっと多かったことだろう。米づくりは、陸稲（おかぼ：畑で作る米）から始まり、水田の場所を変えつつ、続けている。ぶどうに病気が出た年があった。キウイの木に虫が入り枯れ、新しい木を植え直したこともあったそうだ。

これらの活動を未来へとつなぐため、アクシデントを嘆くだけでは駄目だ。「災い転じて福となす」の発想で活動を見直し、さらによいものへと転じていきたい。



恵田っ子へ

「恵田小ぶどうマスター」

恵田小のぶどうづくりについてどれだけ知っているか。恵田小ぶどうマスターになってください。次（つぎ）のクイズに全問正解（ぜんもんせいはい）できれば、ばっちりです。

① ぶどうづくりを始（はじめ）めたのは、明治（めいじ）、大正（たいしょう）、昭和（しょうわ）、平成（へいせい）、どの時代（じだい）の終（おわり）ごろでしょう。

② 恵田小でぶどうづくりを始めたのは、恵田学区（がっこう）でぶどうを育（そだ）てることにし、いっしょに始めるとよいと考（かんが）えたからである。○か×か。

③ 今（いま）つくっているぶどうは、巨峰（きよほ）（う）とシャインマスカットである。○か×か。

④ ぶどうをつくり始めたころぶどうの木（き）をくださった鈴木貞洋（すずきさだひろ）さんは、駒立（こまだち）「マル京（きょう）果園（かえん）」の方（かた）である。○か×か。

⑤ 今、六年生にぶどうづくりをおしえてくださっている三人（さんにん）の方（かた）の名（な）まえは。